



5年ぶりに土曜夜市や水族館に行きました！今いる子どもたちにとっては、もちろん初めての体験です。



電車や船にも乗りました。はじめはドキドキしたけど、楽しかったよ！



施設
職員一同

来たる一年が皆様にとって幸多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

長かったコロナ禍による自粛生活も、少しずつ元の生活を取り戻し、公共交通機関での外出や、お店での買い物など、大切な生活経験を広げることが出来るようになってきました。まだまだ油断はできませんが、子どもたちのためにできることを模索しながら、これからも歩んで参りたいと思います。

皆様の温かいご支援を賜り、今年もクリスマスを迎えることができました。心より感謝申し上げます。



コロナ禍で中止していた

介護等体験・実習生・高校生ボランティア再開！

介護等体験とは

平成10年度から教員免許特例法が施行され、小学校及び中学校の教諭の普通免許状取得希望者に介護等体験が義務付けられました。介護等体験の対象施設は特別支援学校や社会福祉施設、その他文部科学省令で定める施設で、期間は7日間です。これを受けて、松山乳児院では平成12年度から介護等体験の受け入れを開始しました。



離乳食介助の様子

体験者感想（抜粋）

京都女子大学 H さん

この5日間で、多人数の子どもたちのお世話をする先生たち、ママさんたちのすごさを改めて感じました。1人の子を構っていると、他の2人がおもちやの取り合いをしているなど、目も体も何個もないと…という場面があり、体力的にも精神的にもきつい職業なのだと感じる一方、子どもたちの笑顔でその疲れがふつとぶくらい、子どもたちのパワーはすごいなと思いました。

環太平洋大学 S さん

昭和の時代に養護施設実習をしたが、その時代のその場所と当院の保育は全く違うものだった。生活のリズムは同じようにあるものの、その中に流れるものは「パパ」「ママ」という言葉にも表れているように、

人間味のある温かいものだった。子どもの情報共有も「報告」のような形で行われているものでなく、職員同士、とても和やかな雰囲気の中で、自然に育ちや困り事、どうしていいのかが話をしていた。職員同士も固定でなく、流動的に行き来があるのも効果的に感じた。

5日間の実習で、子どもの心と身体ケアを、今この先を見通して、真剣に考えているのが分かりました。この先の実践でまた生かしていきたいと思っています。ありがとうございます。



砂場でおままごと

「はい、どうぞ」

「わあ、おいしいー！」

担当者より

実際の教育現場で活躍をするにあたっては、机上の勉強以外でも身につけるべきことがたくさんあると思います。たとえばわずかの日数であっても、実際に子どもと触れ合いながら養育を体験することは今後の糧になるでしょう。単なる「子ども」という抽象的な存在ではなく、自分を慕ってくれる具体的な存在感のある「子ども」としてほしいと思います。また、この体験を通して、自分が教育者として向いているところはどこか、逆に足りないところはどこなのかを考え知る助けになればと思っています。

院内幼稚園「ひまわり園」 園児たちの作品



高校生ボランティア

平成31年2月より、コロナのため来院しての活動はできませんでしたが、今年度、実に5年ぶりに再開することが出来ました。最初はお兄さん、お姉さんに戸惑っていた子どもたちも、回を重ねるにつれ少しずつ慣れて、一緒に楽しく遊んでもらっています。子どもたちの社会性の発達のためにも、今後もよりしくお願いします！

保育のお手伝い



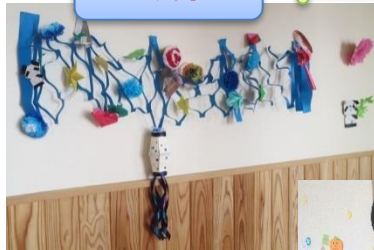
ボランティア感想(抜粋)

松山中央高校3年生

こんなに小さい子たちに囲まれたことは今までになくて、はじめはとまどったり、どう接したら良いかわからずぎくしゃくしてしまいました。が、だんだんみんなも私に話しかけてくれたり、先生方もコミュニケーションをとってくださったおかげで最後まで楽しんで活動することができました。赤ちゃんを抱っこしたり、小さい子どもに服を着せたりするなど、初めてのことばかりで、とても貴重な時間を過ごさせていただきました。

作っていただきました！

七夕飾り



壁面飾り



おもちゃ



お昼寝の間は玩具消毒や掃除のお手伝いもしてくれています。

※ ボランティアに興味のある方は、

松山乳児院までご一報下さい。

089-922-9720 (担当 長井)

新入職員紹介

Sさん【保育士】



長年「乳児院で働きたい！」と思っておりました。昨年保育士資格を取り、念願の乳児院に就職して早1年と2か月が経ちました。前職はデスクワーク中心の全く違った仕事に就いていましたので覚悟はしていたものの、初めは全く違う環境に戸惑うことばかりでした。実際に目にした現実には打ちのめされそうになりましたが、必死にくらいいたような約一年でしたが、仕事に慣れてくると、子どもたちの笑顔や成長に喜びを感じられるようになり、前職では味わえなかった子どもを育てるやりがいや達成感を日々感じております。子どもたち一人ひとりの個性を大切にし、一緒に笑ったり喜んだり、気持ちを共有しながら、笑顔溢れる日常を作っていけるように頑張ります。

乳児院本館一階に、えひめ里親サポートセンターコイノニア

『EFSK (エフスク)』開設

2024 (令和6) 年8月1日、

乳児院本館一階でえひめ里親サポートセンターコイノニア (通称エフスク) が活動を開始しました。

現在、全国で里親登録者数は増加していますが、委託数は横ばいです。その原因として、児童相談所の機能過多、人員不足が挙げられています。

そこで、国は児童相談所の機能の一部を委託することで、一人でも多くの子どもが一刻も早く里親家庭で暮らすことが出来るよう、里親支援センターを児童福祉施設として位置づけることにしました。

これを受けて社会福祉法人コイノニア協会は、エフスクを開設し、同じく里親支援センターとして開設したりエゾンとともに、愛媛県の里親支援活動を行っています。

里親制度に興味がある人もない人も、ぜひ一度エフスクのホームページを覗いてみて下さい。



EFSK メンバー6名

よろしくお願いします！

EFSK のロゴマーク

赤丸は里子、黒丸は里親、円弧状の曲線は EFSK を表しています。

社会福祉法人コイノニア協会のホームページです。
乳児院やエフスクのページはこちらからどうぞ。



お知らせ

松山乳児院では、昨今の社会情勢や環境配慮への取り組みの一環として、年賀状でのご挨拶や、郵送での機関紙の配布を一部見直させていただきました。

今後は、年末年始のご挨拶は機関誌をもって代えさせていただきますと思います。よろしくご理解お願い申し上げます。

また、機関紙が松山乳児院のホームページから閲覧できるようになりました。今後はそちらからお楽しみ頂ければ幸いです。

【行事予定】

1月	お正月
2月	節分
3月	ひなまつり

〒791-8016
発行所 松山市久万ノ台一七三
社会福祉法人
コイノニア協会
松山乳児院
電話(〇八九)九二二一九七二〇

第1回 エフスク フォーラム

家族のカタチはそれぞれあっていいよね

2025年 **2/2** (日)
13:00~15:30 (開場12:30~)

会場 松山東雲女子大学・短期大学
A館3-1教室 (松山市東雲7丁目-1)

参加無料 (要予約)

基礎講演 13:10~14:00
演題 共に生きるための地域社会とは？
—多様な家族の形に対する理解と支援を考えよう—
講師 田中 エリナ氏
プロフィール 1984年徳島県鳴門市に生まれる。松山市立東雲中学校、松山東雲高等学校を卒業。香川県立大学に入学。卒業後、愛媛県に渡り、松山市で生活。現在は、エフスク事務局で働く。エフスクの活動を通して、多様な家族の形に対する理解と支援を考えようという思いで、エフスク事務局で働く。エフスクの活動を通して、多様な家族の形に対する理解と支援を考えようという思いで、エフスク事務局で働く。

パネリスト
友川 礼氏 (松山東雲女子大学 准教授)
田中 エリナ氏
今岡 里美氏 (養育・養子縁組里親)
現在児童養護施設職員 (元里子)

主催：社会福祉法人コイノニア協会 えひめ里親サポートセンターコイノニア
後援：愛媛県、愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会、松山市社会福祉協議会

第1回エフスクフォーラム開催します！

申し込みは [TEL:089-923-3108](tel:089-923-3108)

またはHPよりお願いします。